



児童・生徒の健康と学習権が守られるために、生理用品の学校トイレへの設置ならびに人権としての性教育の実施を求めることについて

1、請願趣旨

日頃は地域住民の命と権利、生活向上のためご尽力されていることに敬意を表します。私たち新日本婦人の会は、国連 NGO 認証団体として、暮らしと平和、ジェンダー平等、子どもたちの幸せのために全国の草の根で行動する女性団体です。

コロナ禍で「生理の貧困」が社会問題として注目されるようになり、学校施設についても、児童・生徒が安心して通学でき、健康で衛生的な生活を保障するために、全国で生理用品の学校トイレへの設置が広がっています。滋賀県でも県立の高校で 2021 年 9 月から女子トイレの手洗い場や個室などに配置されるようになりました。しかし、市内小・中学校では「保健室に来て養護教諭と対話する機会」とし、または「職員室」で対応されている現状です。

私たち新日本婦人の会は昨年、県内の小・中学校の女子児童・生徒の実態や感じていることをつかみたいと「みんなの生理きかせてアンケート」を実施、171 名から回答が寄せられました。アンケートから見えてきたことは、「3 人に 1 人以上は学校で生理用品が無くて困った経験があり、5 人に 1 人以上は保健室で生理用品をもらえることを知らない」ということです。また、生理用品がなくて別の物で済ませた困った経験や保健室に取りに行きにくいと感じていることも分かり、82%が「学校トイレに生理用品が置いてあったほうが良い」と声を寄せています。あわせて、「生理のしくみなどをきちんと知りたい」「男子も生理のことを理解してほしい」という声も出ています。

生理の貧困は、生理用品が手に入りにくいということだけが問題ではありません。児童・生徒が安心して学べる環境づくりと、健康で衛生的な生活を保障されるために以下請願いたします。

2、請願事項

1 児童・生徒が安心して通学でき、健康で衛生的な生活を保障するために、学校施設の女子トイレに返却不要の生理用品を設置してください。

2 月経や妊娠・性病や DV・LGBTQ に対する知識など、体の仕組みや変化を性別問わず理解を深めていくための科学的な性教育を発達年齢に合わせて、教育の場で取り組んでください。